



新着図書紹介

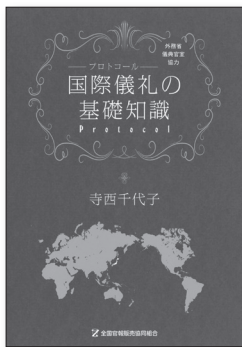
おもてなしの心とノウハウのあるスタッフがいたからこそ被災者を癒やせた、の一言が印象深い。自ら被災しながらも被災者を物心両面で支え、旅館・ホテルがシエルトとして機能した。制度の柔軟な運用等、危機管理への示唆がある。公的な救助や支援が得られない限界状況で、生き延びるために人は何に頼るか。本書『東日本大震災・全旅連の記録 命をつなぐ「おもてなし」旅館ホテルの役割と挑戦』（命をつなぐ「おもてなし」編集委員会編著、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会）には、社会貢献としての二次避難所、都道府県旅連の動き、四つの形で社会貢献した旅館、絆のアルバム、災害に備えた自助努力と公的支援、耐震改修促進法、



四六判 226ページ
定価 1,500円
全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会

事業継続計画（BCP）、国土強靱化に際して旅館にできること、とある。事実に裏付けられた記述には説得力がある。報道されなかった「旅館の果たした多様な役割」に気付かされた。

プロトコルとは、慣習、文化や宗教などが異なっても外国人同士がお互いに円滑に接するための基本的な決め事、国際儀礼のことである。グローバル化が進み、価値観が多様化する今日、その知識の習得が大切だと筆者は言う。本書『プロトコル―国際儀礼の基礎知識』（寺西千代子著、全国官報販売協同組合）では、筆者の外務省在外公館などでの豊富な経験を基に、名前、敬称、序列（席次）、上位席、席割、パーティ、国旗・国歌、服装などの具体例をイラスト付きで解説している。緒方貞子JICA特別顧問（元国連難民高等弁務官）との冒頭の対談では国際社会で尊敬される人のプロトコルへの基本姿勢が語られる。帯に「異文化と違習慣をつなぐ国際社会の共通ルール」とあるように、国際的なおもてなしに携わる人の手引書になるであろう。



A5判 202ページ
定価 1,800円
全国官報販売協同組合

（片桐）

利用状況

ベストリーダー（2014年5月～7月）

当図書館への来館者によく閲覧されている本を紹介。

【旅行ガイドブック部門】

海外旅行では、

- ・『まっぶるフランス2015』（昭文社）
- ・『地球の歩き方スイス アルプス・ハイキング2014-15』（ダイヤモンド・ビッグ社）
- ・『地球の歩き方ペルー ポリビア エクアドル コロンビア2014-15』（ダイヤモンド・ビッグ社）

国内旅行では、

- ・『TRAVELSTYLE 北海道 2014』（成美堂出版）

【その他一般部門】

- ・『数字が語る旅行業2013』（一般社団法人日本旅行業協会）
- ・『観光ビジネス未来白書2014年版』（加藤弘治編著、同友館）

館長のつぶやき

「図書館」が目ざされている。当館は最近、若年女性向け雑誌の特集「私のためのひとり時間」で紹介され、女性の利用が増えた。図書資料だけが目的ではなく、本のある空間価値への期待が高まっていると感じる。

雑誌『ソトコト』は昨年5月号で「おすすめの図書館」を特集した。巻頭を飾った長野県小布施町立「まちとしょテラス」は、2009年（平成21年）、「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」をコンセプトにリニューアル。訪ねて驚いたのは、図書の利用冊数が2.5倍、利用人数はなんと5倍になったという館長の話。書架や閲覧席の一角で行われる親子向けのユニークなワークショップや女子学生のおしゃべりなど、時間帯によって表情の変わる雰囲気心が心地よかった。（久保田）

特別展示のご案内

日本の温泉地と観光

2014年10月1日（水）～11月28日（金）

古来、豊かな「温泉資源」に恵まれてきた日本。世界屈指の温泉国である日本には、大小さまざまな「温泉地」があり、日本人にとって最も人気がある旅行先の一つになっています。

日本人と「温泉」との関わりは遠く神代の時代にまでさかのぼりますが、温泉は日本人の生活にどのように溶け込み、親しまれてきたのでしょうか。それとともに、温泉地はこれまでどのように発展・変貌してきたのでしょうか。

本展では「日本の温泉地と観光」をキーワードに、温泉（地）の持つ価値を考える上で参考になる図書、専門書、古書・稀覯書（抜粋コピー）などを集めました。

また、当財団と国内の代表的温泉地とが連携して取り組んでいる「温泉まちづくり研究会」の成果及び温泉地からご提供いただいた資料なども併せて展示いたします。

ぜひ多くの方に当館を訪れていただき、温泉と温泉地の原点を見つめ直す機会にしてくださいと思います。

*詳細は、ホームページ<http://www.jtb.or.jp/>へ。

旅の図書館特別展示で検索